

講義名	メディアリテラシー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・情報にアクセスする際は、データ・AIの利活用などを通じて「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーを高める。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から話を聞き、発信する側の思いや取り組みを知る。 ・さらに、新聞でいえば「国際面」「社会面」「政治面」それぞれの主役である外交官、警察関係者、政治家らから直接話を聞くことで、ニュース報道からだけでは見えない側面を自ら発見する。 <p>この科目は、DP0-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>メディアリテラシーとは、新聞やテレビ、インターネットなどから発信される情報を正しく理解し、また、ときには自ら情報を適切に発信する能力のこと。AIなどの技術が急速に発達している近年のデジタル社会においては、これに加えて「デジタル時代の読み・書き・そろばん」とも言われる「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーが求められています。</p> <p>本講座では、AI翻訳を活用して英字情報に積極的にアクセスするほか、日々のニュースの主役である外交官、政治家、警察関係者らをゲストスピーカーとして招き、メディアのフィルターを通さない1次情報に接してもらいます。さらに、第一線で活躍するメディア関係者からも話を聞き、メディアの現状と課題に対する理解を深めます。ゲストの回は質疑応答の時間を設けるので、積極的に質問を。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス：メディアリテラシーとは — メディア情報を大学生活にどう生かすか</p> <p>第2回 メディアの種類と特性 — 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット</p> <p>第3回 メディアを巡る諸問題(1) — 誤報、客観報道と情報操作</p> <p>第4回 メディアを巡る諸問題(2) — 実名報道</p> <p>第5回 英字メディアのリテラシー(1)</p> <p>第6回 英字メディアのリテラシー(2)</p> <p>第7回 テレビ局の仕事</p> <p>第8回 新聞社の仕事</p> <p>第9回 FMラジオ局のさまざまな取り組み — 音楽からアートまで</p> <p>第10回 ソーシャルメディアの功罪</p> <p>第11回 ニュースの主役(1) — 警察</p> <p>第12回 ニュースの主役(2) — 外交官</p> <p>第13回 ニュースの主役(3) — 政治家</p> <p>第14回 動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介）</p> <p>第15回 情報収集・分析のプロたち — インテリジェンスとは</p> <p>※予定は目安です。変更になる場合があります。</p>
成績評価	<p>毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。</p>

教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会） ※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	情報誌の編集、米全国紙のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載に携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長として年間2万件を超えるビザの発給業務のほか、カンボジアー日本の二国間交流や各国公館との国際交流に従事。新聞のインタビューでは政治家、外交官らを取材し、紙面紹介した。新聞社における自らの体験に加え、テレビ、ラジオの報道・制作現場の声を伝えるため、さらに日々のニュースの主役ともいえる警察官、外交官、政治家などの声に直接触れる機会を設けるため、メンバーをゲスト講師として招いている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA103L